

腰部脊柱管狭窄症の 治療

Q1 腰部脊柱管狭窄症とは？

腰部脊柱管狭窄症は腰椎の神経の通り道（腰部脊柱管といいますが）が加齢性変化により徐々に狭くなり、中を通っている馬尾神経が締め付けられ、また、周囲の組織との癒着が生じ、神経の血行が悪くなることにより、神経への酸素供給・栄養供給が欠乏することになり、下肢のしびれ、痛み、脱力等を生じる病気です。特徴的な症状として、間欠性跛行といって、歩行すればするほど下肢のしびれ、痛み、脱力を生じ、それ以上歩行できなくなります。神経の通り道の

Q2 腰部脊柱管狭窄症の治療は？

狭さはMRI検査にて評価が可能です。寝たきりの原因となることは稀な病気ですが、間欠性跛行により連続歩行が困難となり、生活が不便となり、生活の質に大きな影響を与える病気です。

まずは薬物療法（プロスタグランディン製剤、血流をよくする薬です）を行います。軽症の患者さんは薬物療法で症状のコントロールが可能場合があります。重症の患者さんには薬物療法が無効な場合が多いです。なお、薬物療法は神経の血流改

Q3 腰部脊柱管狭窄症と似た症状の病気は？

善、神経組織への酸素・栄養供給の改善を期待して行う治療ではありませんが、狭窄を根本解決する治療ではありません。狭窄の根本解決としては手術治療（腰椎の骨を安全な範囲で削り、神経の圧迫を除去する治療）があり、1週間～2週間の入院が必要ですが、その場合、脊椎脊髄病の専門医を受診すると患者さん個々の状態に応じて、手術の適否について相談が可能です。

また、最近、岐阜市民病院整形外科では、局所麻酔で行えるカテーテル治療も可能となっています。おしりに4mm程度の切開を加え、カテーテルを挿入し、脊柱管における癒着をはがします。この治療は1泊2泊で行うことができます。長期入院が不可能な患者さん、いろいろな病気があったり、また、超高齢などで全身麻酔手術が不可能な患者さんの福音となっています。

腰椎変性後彎症という腰椎の前弯が加齢性変化によりなくなり、ねこぜ姿勢となり、立った姿勢にて腰部臀部の痛みが生じ、それゆえに歩行が困難となる病気があります。整形外科にて、MRIやレントゲン検査、くわしい問診にて鑑別が可能です。

また、閉塞性動脈硬化症という下肢の血管が細くなり、下肢への血流が悪くなる病気もあり、鑑別が必要です。注意するべきこととして、腰部脊柱管狭窄症と閉塞性動脈硬化症を合併した患者さんもおられます。閉塞性動脈硬化症は血管外科や循環器内科で治療を行います。

岐阜市民病院整形外科では、腰部脊柱管狭窄症の診断、手術治療（カテーテル治療を含む）を行っております。かかりつけ医からの紹介状を持参のうえでの受診を提案いたします。

今月の先生

岐阜市民病院 整形外科

宮本 敬



○専門分野

脊椎脊髄手術、脊柱側弯症、低侵襲脊椎手術、高齢者の脊柱変形の治療

○役職

整形外科長
整形外科部長

○主な資格、認定

岐阜大学客員臨床系医学教授
日本整形外科学会 代議員
日本整形外科学会 専門医
日本整形外科学会認定 脊椎脊髄病医
日本脊椎脊髄病学会 評議員
日本脊椎インスツルメンテーション学会 評議員

日本脊椎脊髄神経手術手技学会 理事

日本成人脊柱変形学会 幹事

日本脊柱前方側方進入手術研究会 執行幹事

日本MIST学会（最小侵襲脊椎治療学会）評議員

AO Spine Japan Delegate

中部MIST研究会（低侵襲脊椎安定術研究会）幹事

東海脊椎脊髄病研究会 幹事

The Best Doctors in Japan® 2020-2021

○卒業年、主な職歴

平成 2年岐阜大学医学部卒

平成12年マルセイユ大学、ポルドー大学脊椎センター（フランス）

平成15年～平成18年ラッシュ医科大学脊椎組織工学研究所（アメリカ）

平成19年～平成27年岐阜大学脊椎骨関節再建外科准教授